

No.	ワーキンググループ	目的	H22年度上半期 取組実績・成果等	今後の課題・計画
1	紹介患者増加ワーキンググループ(地域医療連携委員会) (医事課)	新入院、新外来患者の増加(診療所へのPR、連携手続きの改善と周知、海南病院との連携、サイバーナイフ患者の増加 など)	<ol style="list-style-type: none"> 紹介患者予約システムの改善 <ul style="list-style-type: none"> 医療連携のスムーズ化等の改善を図る目的により、各診療科で行っていた予約入力を地域医療連携室で入力する方式に改善、まずは内科系診療科から開始した。 海南病院との連携 <ul style="list-style-type: none"> 平成22年9月22日開催の会議にて疾病別の連携について確認と今後の方向性について検討をした。 大腿骨頸部に関する地域連携パスについて、平成22年6月5日開催の会議において運用を確認し開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携室による診察予約については、他の診療科においても実施できるよう進めていく。 地域医療連携室での診察予約枠を拡大できるよう関連部署と検討していき、紹介患者の増加を図っていく。 新しいCTのPRを展開し紹介件数の拡充を図る。 サイバーナイフ治療等を各医療機関にPRし、紹介患者の獲得を図る。 海南病院との連携については、上半期同様引き続き行っていく。
2	病床運営ワーキンググループ (看護局)	病床利用率向上、平均在院日数の適正化(退院コントロール、緊急入院受け入れ、病床再編、緩和ケア・回復リハ利用促進 など)	<ol style="list-style-type: none"> 病床利用率向上について <ul style="list-style-type: none"> 予約患者のベット確保は、翌日分のみとすることの徹底 社会的入院患者、治療終了患者については地域医療連携室と協働し、後方支援病院への協力依頼をしていく。 ⇒後方支援病院の受け入れ状況を、ワーキングに提供し活用していく 退院コントロールについて <ul style="list-style-type: none"> 退院申込み入力を診療局に依頼する。退院予定がオーダーされていない為入院予定ができない。 ⇒診療局へ退院申込みオーダーを依頼する。 病床運用困難な場合は、院長名でイントラに掲載し、各診療科退院許可の協力依頼をしていく。 緩和ケア・回復リハ利用促進について <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働は、緩和ケア57.9%(64.0%)、回復リハ86.7%(前年68.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の入院患者内訳(予約・緊急)をみると、緊急入院(7割)が圧倒的に多く占めている。その中で病床管理をいかに行うかが課題となっている。 緊急入院の受け入れについては、その緊急性も含め診療局と検討をしていく必要がある。 どこからでもリアルタイムに空床の確認ができる。また、緊急入院をスムーズに受け入れていくかが課題となる。 DPC導入に向けて、休日入院の受け入れについて検討していく。 緩和ケア・回復リハについては、病棟医師、主治医とともに転棟を考えていく。
3	入退院業務ワーキンググループ (看護局)	患者サービスの向上と業務の効率化を図る。 ①患者が安心して入院できるよう、入院生活がイメージできるよう視聴覚器材を用いて案内し必要な書類や物品について患者個々に説明を行い、入院準備につなげる。 ②継続看護、退院支援など早期から介入できるように入院前スクリーニングを行い、地域医療連携室や病棟と連携をとり、必要な支援を行う。 ③DPC導入に伴い、円滑な薬剤管理を行う。	<ol style="list-style-type: none"> 入院案内室・入院受付の開設 8月23日:入院案内室・入院受付 開設 8月23日:内科系の案内および予約患者の対応開始 10月1日:内科に加えて1階外科系の案内および予約患者の対応開始 ・9月の入院案内73件、入院受付50件(うち薬剤指導23件、MSW依頼2件) (9月内科系入院患者235名(日勤帯131名(うち予約53名)) ・入院受け付けにおいてはほぼ全員の予約患者の対応ができています。 ・薬剤識別依頼、MSW依頼が増加傾向にある。 ・入院案内室において患者から説明をきいて安心という声が多く聞かれる。 ・不安な表情で入院案内を訪れた患者に対し再度医師の診察をうけ、納得できる説明をうけてもらった例がある。 ・バラバラであった内科系、外科系の手順・様式の統一を図ることができた。 ・病棟・外来の連携が進み協力体制が出来てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外科系を開始することにより手順の統一を図ることができるようになったが、まだ各科の独自のものが多い。 早期に全科の入院案内を開始し、年度内に受付についても対応したい。 外来のしくみ・他職種との協力を検討することによる人材確保をはかることも必要である。 当院は予約入院より、緊急入院が多い状況がある。緊急入院に対する外来看護師及び薬剤師の役割・サポート体制が課題である。
4	看護師確保ワーキンググループ (看護局)	7対1看護の維持、休止病棟再開(募集・PR方法、魅力ある職場の実現、保育施設の強化充実など)	<ol style="list-style-type: none"> 看護師募集PR <ul style="list-style-type: none"> 学校訪問、ナースバンク・職安に登録、常勤、嘱託、夜間専従看護師を募集 中日新聞 看護師就職応援キャンペーンへの参加 ポスター配布(院内、市施設、スーパー、駅等)、広告(ちらしの配布 あまZONe92号(6月25日)170,000部 中日新聞折込チラシ(7月4日)76,000部) 退職者および津島市立看護専門学校卒業生への手紙による勧誘 ※4月以降の中途採用者は19名(職員:6名、嘱託:9名、パート:4名)。 折込チラシ、キャンペーンが効果的であった。産休・育休者が看護師の15%を占め、夜勤免除者も数人いることから、十分な看護師の確保ができたとはいえない状況である 働き続けられる環境づくり <ol style="list-style-type: none"> ①託児所強化 <ul style="list-style-type: none"> 職員 508名を対象に託児所に関する質問紙調査を実施。 ※ 夜間保育の実施を検討・調整中である。来年度4月～夜間保育を希望。 ②子育て支援対策 <ul style="list-style-type: none"> 部分休業や育児短時間勤務を取得できる、ワークライフバランスを考えた勤務配置や業務内容を検討。 ③夜間勤務体制 <ul style="list-style-type: none"> 夜勤勤務の手当の改善(繁忙手当、9回目の夜勤手当の加算など) ④看護師の処遇改善 <ul style="list-style-type: none"> 経験年数の加算、嘱託の給料の検討、初任給の再検討中。 ⑤退職者の減少 ※4月以降の退職者数:5名(職員:3名、嘱託:2名)。 ・働き続けられる支援体制、魅力ある職場づくり。 ・看護師職務満足度調査を実施(平成22年11月 予定) 	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間保育の決定、運用についての検討。 職務満足度調査の結果から、仕事継続への意志向上への対応を行う。 中途採用者及び短期間勤務者が定着できるサポート体制が課題である。 <p>成果(目標数値)※産休・育休者等除く 平成23年4月 常勤換算職員数304名以上 実職員数318名(常勤:248名、嘱託・パート:70名) 採用:30名以上、退職者:15名 平成24年4月 常勤換算職員数331名以上 実職員数345名(常勤:275名、嘱託・パート:70名) 採用:42名以上、退職者:15名</p>

No.	ワーキンググループ	目的	H22年度上半期 取組実績・成果等	今後の課題・計画
5	診療報酬取得ワーキンググループ (管理課)	収益の向上(診療報酬改定後の検証、新規基準の取得、既存報酬の算定向上 など)	<ol style="list-style-type: none"> 診療報酬改定後の検証 <ul style="list-style-type: none"> 急性期看護補助体制加算など21件の施設基準を取得 他病院の取得状況と比較し新たな施設基準取得を検討 今年度に取得・算定できる施設基準 <ul style="list-style-type: none"> CT撮影16列以上(820→900点) ・冠動脈CT撮影加算(加算600点) 新たな施設基準の取得に向けた検討 <ol style="list-style-type: none"> ①ハイケアユニット入院医療管理料(1日4500点) <ul style="list-style-type: none"> 看護師配置の可否、費用対効果等について検証する。 ②総合入院体制加算(1日120点) <ul style="list-style-type: none"> 全身麻酔件数及び退院患者の情報提供料算定割合が課題。中・長期的に取得を目指す。 ③感染防止対策加算(入院初日100点) <ul style="list-style-type: none"> 看護師の所定の研修修了を進める 既存診療報酬の算定向上 <ol style="list-style-type: none"> ①栄養管理計画実施加算(1日12点) <ul style="list-style-type: none"> 栄養管理室対応から、看護師の協力による病院全体で運用する方式に様式やシステムを変更(9月)。 ②9月実績算定率76%(4～8月44%)月約40万円の増収 ③重症者等療養環境特別加算(個室1日300点) <ul style="list-style-type: none"> 重症加算病床及び室料差額病床の利用状況について検討する。 	<p>※DPCを踏まえた施設基準の取得(23年4月)に向けた取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 出来高による請求加算 <ol style="list-style-type: none"> ①小児入院医療管理料4(1日1250点) <ul style="list-style-type: none"> ・医師数の状況により管理料4又は5を取得 ②ハイケアユニット入院医療管理料(1日2750点) <ul style="list-style-type: none"> ・4南又は5南病棟に4～8床を設置する方向で検討を進める。 ・あわせて重症個室の効率化を検討する。 機能評価係数Ⅰの加算 <ol style="list-style-type: none"> ①医師事務作業補助体制加算の拡充(75対1→50対1or25対1) <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ導入化での補助員必要数を精査し拡充を検討する。 ②検体検査管理加算の拡充(Ⅱ→Ⅳ) <ul style="list-style-type: none"> ・検体検査を担当する医師の確保を進める。
6	DPCワーキンググループ(DPC運営委員会) (医事課)	DPCに対応するサービス、診療体制等の整備(DPCに対応した診療方法等の検討、後発薬品採用の検討、住民・職員啓発など)	<ol style="list-style-type: none"> DPC運営委員会(毎月第2木曜日開催) <ul style="list-style-type: none"> ・DPC導入に向けての検討事項作成 ・検討事項への対応方針等作成 DPC導入に向けた後発医薬品採用の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・切り替え対象の洗い出し(H21年度入院分金額トップ100についての後発品の有無の調査) ・「DPC導入に向けた後発医薬品採用基準(案)」作成 ・基準案の薬事委員会への提出(承認) 啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・市政のひろばへの掲載(7月、9月及び11月号) ・院内イントラへの掲載(『DPC入門』、『検討事項』等) ・院内説明会及び講習会開催(様式1説明会、DPC講習会) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・DPC分析システム「EVE」導入 ・DPCベンチマークシステム「EVE-ASP」導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○院内における意識高揚及び知識向上。 ○「EVE」及び「EVE-ASP」の有効活用。 ○実務マニュアルの作成。 ○電子カルテ導入にあわせた整理。 ○後発医薬品採用における院内調整 ・意向確認 ・切り替え対象等案作成 ・切り替え対象、切り替え時期等調整
7	電子カルテワーキンググループ (医事課)	医療の質の向上と効率化(電子カルテ導入に関する検討、院内体制づくり など)	<p>電子カルテ導入の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・他社ベンダーより電子カルテを含む次期システムの情報収集。 ・現ベンダーに次期システムの提案と概算見積り依頼 ・各ベンダーのシステムデモを行う 会議 <ol style="list-style-type: none"> ①7月23日第一回ワーキンググループを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・システム導入時期の検討(現システムの状況と課題の共有) ・次期システムの機種検討(ベンダー選定方法の検討) ・パッケージに含める部門システムの検討(導入の範囲の検討) ・導入に係る院内環境の検討(CPU室拡大・開発室の確保等) ・仕様書作成 ・詳細な導入スケジュール作成 ・電子カルテ運用について手順書の作成 ②8月18日第2回ワーキンググループを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・次期システムの選定について 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入ベンダーの決定 ・各部門の範囲の決定 ・全体の運用の検討
8	中央放射線機能強化ワーキンググループ (管理課)	医療の質の向上と効率化(機器の更新、配置の見直し、その他機器活用など)	<ol style="list-style-type: none"> CTの更新 <ul style="list-style-type: none"> ・CT機種選定(メーカー)シーメンス(機種)Dual Energy対応2管球CT撮影装置SOMATOM Definition Flash 16列X線CT撮影装置 SOMATOM Emotion16 Excel Edition ・CT導入までのスケジュール調整 ・新CT PR計画策定 今後の放射線室の更新計画策定 <ul style="list-style-type: none"> ・23年度更新予定 マンモグラフィー X線TV MRI MRI(VerUP) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーとの交渉方法 ・契約方法 ・資金計画の策定 ・院内周知方法